21修辞と鑑賞

Ａ　わが園に梅の花散る（　　Ⅰ　　）より雪の流れ来るかも

Ｂ　たちのも①はるの雪ふれば花なき里も花ぞ散りける

Ｃ　見わたせば山もとかすむゆふべは秋と何思ひけむ

Ｄ　春の夜の夢の浮き橋とだえして峰にわかるる横雲の空 藤原

Ｅ　病むの夜寒に落ちて旅寝かな 　　 松尾

Ｆ　梅がにのつと日の出る（Ⅱ　　　　） 松尾　芭蕉

Ｇ＊にぶか流るる（Ⅲ　　　　）

Ｈ＊として石に日の入る枯れ野かな 与謝　蕪村

＊語注

＊易水…中国河北省の川。

＊ねぶか…ねぎ。冬の野菜。

＊蕭条…物さびしいさま。

問１　（　）Ⅰに入るを次から選び、記号を○で囲め。

ア　たらちねの　　イ　あしひきの

ウ　ぬばたまの　　エ　ひさかたの

問２　Ａ･Ｂにはそれぞれどんな情景がうたわれているか。「雪」「花」のいずれかから選んで答えよ。

Ａ　まるで〔　　　〕のように、〔　　　〕が散っている情景。

Ｂ　まるで〔　　　〕のように、〔　　　〕が散っている情景。

問３　―線部①は掛詞であるが、ふたとおりの漢字として、適当なものを次から選び、それぞれ記号を○で囲め。

ア　貼る　　イ　張る　　ウ　春　　エ　晴

問４　次の項目に該当する和歌をＡ～Ｄから選び、記号で答えよ。

①　二句切れ＝（　　　）　　②　三句切れ＝（　　　）

問５　Ａ～Ｄの和歌はすべて同じ季節のものであるが、それと同じ季節の俳句をＥ～Ｈから一つ選び、記号で答えよ。

（　　　）

問６　（　）Ⅱ、Ⅲに入る結句をそれぞれ次から選び、記号を書き込め。

ア　山路かな　　イ　寒さかな

ウ　桜かな　　　エ　夏野かな

問７　次の鑑賞文に該当するものをＡ～Ｈから選び、記号で答えよ。

①　旅先で病んだ折りのしい心情を詠む。 　 （　　　）

②　短い夢から覚めた時の眺めを、体言止めで詠む。 （　　　）

③　刺客を詠んだ漢詩文をふまえた句。　　 （　　　）

④　春の夕暮れの美を見出だした驚きを詠む。　　　 （　　　）

⑤　薄明の中のたる香りと行く手の朝日とを詠む。 （　　　）

【解答】

問１　エ

問２　Ａ＝雪・花　Ｂ＝花・雪

問３　イ・ウ

問４　①＝Ａ　②＝Ｃ

問５　Ｆ

問６　Ⅱ＝ア　Ⅲ＝イ

問７　①＝Ｅ　②＝Ｄ　③＝Ｇ　④＝Ｃ　⑤＝Ｆ

ポイント

問１　「枕詞」はかかり受けが決まっている原則五音の飾りことば。「ひさかたの→光・天」、「たらちねの→母」、「あしひきの→山」、「ぬばたまの→夜」と使う。

問５　和歌はすべて春の歌。俳句はＥ「夜寒」＝秋、Ｆ「梅が香」＝春、Ｇ・Ｈはいずれも冬の句。